

## 平成16年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	60	学校名	県立土浦湖北高等学校				課程	全日制普通科			学校長名	石塚 眞				
教頭名	岡崎 尚俊								事務 長名	荒井 淑子						
教職員数	教諭	44	養護 教諭	1	常勤 講師	2	非常勤 講師	2	実習教諭, 実習講 師, 実習助手	1	事務職 員	3	技術職 員等	2	計	55
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計人数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	21			
	普通科		137	143	137	146	112	155			386	444	830			
	科															
	科															

## 2 目指す学校像

憲法及び教育基本法に則り、学校教育法の示す高等学校の目的、高等学校教育の目標及び本県教育の目標達成を期し、文武両道の精神を貫き、活力ある学校づくりを推進し、自律の態度・創造力・思いやりの心を育て、知性豊かで心身ともに健康で誠実な人間の育成に努める。  
また、地域社会の進学校として教職員が一致協力して学校運営に努め、生徒一人一人の進路希望の実現を目指すなど、進路指導の充実を図る。

## 3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
学 習 指 導	積極的に授業へ参加し、家庭学習にも真剣に取り組む生徒も多数いるが、全体的にはまだ不十分である。	受験に対応する学力を付けるため、自学自習への取り組みをどう進めるか。
進 路 指 導	大学進学希望者が多く、その達成率は徐々に伸びているが、まだ低い。	進学希望者の進路実現をどう推進していくか。（質的向上・量的拡大）
生 徒 指 導	欠席、遅刻、早退者の数の増加、服装、頭髪、マナー挨拶等も十分でない。	教職員の共通理解のもと、規律ある生活と規範意識の高揚をどう推進するか。
特 別 活 動	部活動は活発で、成果も上がっているが、ホームルームの活動内容、文化祭での発表内容が十分でない。	生徒による自立的な取り組みをどう推進するか。

#### 4 中期的目標

1	生徒自らの意欲的な学習を促し、多彩な進路希望の実現に向けた特色ある教育課程を編成するとともに、教科指導に関する研修を充実し、教育内容の改善を図る。
2	心の教育の充実を図るために、人権教育や道徳教育の充実、ボランティア活動等の充実を図る。
3	大学合格率を上げるために、個人面接や進路ガイダンスなど、きめ細かな進路指導や課外指導の充実を図る。
4	人間関係を円滑にし、生徒が生き生きとした学校生活を送るよう、文化祭やクラスマッチなどの学校行事の内容の充実を図る。(運動部が好成績を上げ、学業面その他においても大いに活気づけるチャンスである)

#### 5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな学習指導の充実 規範意識の確立や人権尊重の精神の涵養を図る取り組みの実施 3年間を見通した計画的な進路指導の実施 学校行事に全職員があたりなど特別活動の充実	分かる授業の展開・習熟度別授業の展開・進学指導のノウハウを予備校講師に学び、教科指導の改善・充実を図る。 教師・生徒がともに「身だしなみを整えよう」運動に取り組みことやHR指導資料を活用したHRの実施を図る。 個人面接の充実や進路ガイダンスの充実、進路指導資料「進路のしおり」の内容の見直しを行う。土曜日の活用。 文化祭、クラスマッチの企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事を実施する。	
2年次	生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな学習指導の充実 規範意識の確立や人権尊重の精神の涵養を図る取り組みの実施 3年間を見通した計画的な進路指導の実施 学校の安全管理・事故防止・生徒指導の充実	成績不振者や優秀者への指導の手が加えられるが、中間層へのより一層の指導・助言により、全体の学力向上を図る 教師・生徒がともに「校則を守ろう」運動にホームルームで取り組み、保護者も交えた運動を推進する。 教科の学習は、1～3年間の積み重ねが大事であり、教科としての進学プログラムの確立を図る。 教職員の共通理解による対応。交通安全指導、校内外の巡視、保護者を巻き込んだ立哨指導等による対応。	
3年次	生徒一人一人の学力に応じたきめ細かな学習指導の充実 規範意識の確立や人権尊重の精神の涵養を図る取り組みの実施 3年間を見通した計画的な進路指導の実施 生徒会・教職員・PTA・地域の合同奉仕作業等の実施	個々の生徒の学力・入試問題等の分析、指導法の研究・改善により適切な授業の展開する。 教師・生徒がともに「公共マナーを守ろう」運動に取り組み、保護者や地域を巻き込んだ運動を推進する。 各学年・各教科・進路指導部を中心とした情報交換をもとに対応を検討する。(入試のスタイルや制度等の変更) 地域の催し物への生徒の参加、清掃や缶拾い等への参加を図り、地域の方々との交流を深める。	